松波むかし語り―ここに住み続けて　その５

今回のお客様

老人会会長、踊りは師範“西川喜美久”。

鎌田　ヒサさん　83歳　4丁目

昭和27年、住んだ家は一面落花生畑、庭の片隅のポンポンダリアが可憐でしたね。

「アタシゃまだ老人会行くトシじゃない」というから、「いくつ」って聞いたら80だってハハハ…。

「四季の山姥」を舞う
昭和48年ころの鎌田さん

「私は昭和20年3月9日の東京大空襲で、亀戸の家を焼け出されたんです」。それはたいへんでしたね。昭和27年に移ってこられた当時の松波町はどうでした？　「それはのんびりしたもんでした。家4軒の真ん中に共同水道が1本、炊事は炭や練炭、氷の冷蔵庫を使ってました。当時の道路はむき出しの赤土で、雨が降るとぬかってたいへんでした。冬も寒くて、船橋の職場へ行くのに千葉商のグランドを横切ったんですが、霜柱を踏みしめながら通ったものです。西千葉周辺の松林も、今より広々としていました」。いつも敬老会で、すてきな日本舞踊を拝見しています。「踊りは17,8の頃から西川流を習っていました。師範『西川喜美久』という名です。町会とのおつきあいもこの踊りからで、『盆踊りに出てくれないか』と言われて、うちの生徒を連れて踊った頃は三重の輪ができるほどにぎやかでした。昔は仮装盆踊りだの、当時の堀田会長の時分は表でカラオケ大会を開いたり……。盆踊りでは、みんな舞台で踊りたいもんだから、『もう代わりなさいよ！』なんて声が飛び交ってにぎやかでした。今は一重の輪もつながらないでしょ。パソコンいじってた方がおもしろいのかね？」。

「どなたもお楽しみ会に」と語る鎌田さん

老人会の活動はどうですか？　「13年ほど前、4丁目の区長をしていた真下さんから誘われたんですが、今は毎月、50人前後の人が集まって誕生会を開いています。4年ほど前から『歌の会』と『おたのしみ会』を開いています。時に、入会を勧めると『私はまだ老人会に入るようなトシじゃない』と言うからいくつかと思えば『まだ80』だって（笑い）。『おたのしみ会』は、町内の人で100円の参加費を払えば、老若男女どなたでも参加できます。若い人、年寄りは関係なく交流して、コミュニケーションをとってゆきたいですね」。

「人々との交流の中で、『ありがとう』という感謝の言葉や、『ごめんなさい』という間違いを認めた時の言葉は失いたくない」とおっしゃる鎌田さん。ちなみに「健康法は？」と聞くと、「人とのおしゃべり、歌って踊って小旅行、そしてよく食べること」だそうです。